

Voices



ヴォーリスだより



特集

全人的ケア推進委員会主催講演会
「私が受けた全人的ケア」

巻頭言

「新年のご挨拶を申し上げます」

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院

診療技術部長 酒井 英志



Vol. 142

2020年1月発行

基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

— 私たちは、基本理念を大切にします。 —



「新年のご挨拶を申し上げます」

診療技術部長
酒井英志



あけましておめでとうございます。皆さまには健やかに新年をお迎えのことと、こころよりお慶び申し上げます。

昨年5月に元号が「令和」に変わり、2020年は「令和」で迎える初めての新年となります。昨秋時点でのニュースとなりますが、滋賀県内で100歳以上の人は769人（男性90人、女性706人）おられ、一昨年に比べて男性は5人、女性は56人増え、全体で61人増と23年連続の増加となったそうです。また、「明治」から「令和」まで五つの時代を経験している方が15人おられるようです。五つの時代を生き抜き、家族のため、社会のために力を尽くされた方々に敬意を表したいものです。

「令和」は始まったところですが、高齢化の波を普段の業務だけでなく、何気ない町の光景にも感じるようになりました。2040年頃が高齢者人口のピークと予測されておりますが、2020年はまだ序章といったところでしょうか。

さて、ヴォーリズ記念病院は、このピークに向けて、医療・介護・福祉の提供体制を強化していく方向性で調整しております。そのうちのひとつとして、昨年9月1日に回復期リハビリテーション病棟を42床から60床へ増床しました。地域医療構想の枠組みのなかで、当院の役割を再確認し、将来像を示したものと考えております。この病床再編は、単に量の問題ではなく、医療の質の確保も課題と考えております。リハビリテーション医学は、『変化への適応をデザインすることである』といわれます。患者さんは病気や怪我により個人差はありますが、入院前の身体とは違った状態で、今まで生活してこられた地域や住宅、施設に戻ることにになります。患者さんが再び環境に適応するために、変化を的確に診断・評価し、様々な治療手段を駆使して、またはどのような支援が必要なのかを最大限にイメージし、その後の生活をデザインすることが求められていると思われまます。我々、回復期リハビリテーションに携わる者は、患者さんが抱える複雑で多様な問題に対し、現状の制約と潜在する可能性を見極めながら、よりよい生活をデザインするために、患者さんや家族、そしてチームのメンバーと力を合わせ、質の向上を図りたいと思っております。

ヴォーリズ記念病院の前身となる近江療養院の開院から、102回目の正月を迎えました。ヴォーリズ記念病院は大正7年生まれですので、四つの時代を経験してきたこととなります。しかし、次の時代に進んでいくことは容易ではありません。少子高齢化のなかで、医療・介護領域で働く人材の確保は当院にとって事業継続するための最大の課題といえます。どの時代においても課題はあったはずですが。継続は容易なことではなかったと思います。今後も様々な課題を乗り越え、創立者W・M・ヴォーリズの意志を継承し、病院機能を高めて、どの時代においても地域の皆様から愛され信頼される病院となるように努力致します。

チャプレンだより④

あ理がとう

チャプレン 中村 信雄

神戸にいたころ、教会の信頼できる先達と神学部の後輩たちと共に、野宿せざるを得ない方々をお訪ねする夜回りをしていました。晩秋の夜、地下街に降りる階段の踊り場で、コートを深く被りうずくまっている人に出会いました。勇気を出して声をかけました。自分のいのちを諦める言葉を何度も話されました。出会ったのは震災後9年目でしたが、あの震災が家族との関係を奪い去りました。そして自分を支えていた誇りある仕事を定年で失い、生きる意味を見失ったそうです。

夜回りの日以外もお訪ねし、一緒にパンを食べ、紅茶を飲みました。少しずつ生きようとしてくださいました。社会的な支援を得て新たな生活を始められました。それから7年間、与えられたいのちを生き抜き、神様のもとへ旅立たれました。

ある真冬の夜、その方が年賀状を用意して待っていてくれました。年賀状といっても、紙切れの裏側に鉛筆で書かれたものです。まだ野宿されていたときのことです。紙と鉛筆を探し歩き、寒さに耐えながら考え、思いを言葉にし、それを持って何日も何日も待っていてくださったのです。

もうひとつのメッセージがあります。ヒントは頭文字です。いろんなことがある人生ですが、今も、その方との出会いと、この「あ理がとう」に、私は支えられているように思います。

恭賀新年
 あたら青春まは中
 理解お人サユに
 かんはる力の理は
 ととも分らぬ小サはれと
 うんと感謝の想いはり
 平成17年元旦

部署紹介

臨床検査科

臨床検査科 臨床検査技師 鯉江 賢二

当臨床検査科は、生理検査部門と検体検査部門に分かれています。

生理検査部門は、心臓超音波、血管超音波、心電図等の循環器検査、呼吸機能検査や睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型SAS検査など、多種多様な生理検査を実施しています。呼吸機能検査では、肺活量やフローリウムの測定だけでなく、DLco（肺拡散能力）測定ができる総合肺機能測定装置(株)フクダ電子より、びまん性肺疾患とよばれる間質性肺炎の早期発見や、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。

検体検査部門は、2005年12月1日よりブランチラボ（検査センター メディック(株)）になりました。ブランチラボとは、検査センターが病院の検査室を借り、検査機器を設置し、院内で緊急の血液検査や尿検査等を実施することです。その他の検体検査は、センターに持ち帰り検査をします。検査センターで経験を積んだ技師が院内で検査をすることにより、より精度の高い結果が報告できます。

病態を意識し検査業務に取り組む事をモットーとし、患者に必要な臨床検査を目指します。



特集

全人的ケア推進委員会主催講演会

2019年11月14日（木）ヴォーリス記念病院 研修室

＜演題＞ 「私が受りたい全人的ケア」～患者目線と医療者目線の複眼的視点から～

＜講師＞ 湯川胃腸病院 緩和ケア内科 医師 細井 順先生



細井 順先生

病院で働く職員が、全人的ケアとは何かという原点に戻り、改めて理解を深めるため、ヴォーリス記念病院ホスピス「希望館」の立ち上げから、13年間関わって下さった細井 順先生にご講演頂きました。

先生は、当院ホスピス「希望館」の開設に関わり、患者さんの“生”に寄り添いながら、ホスピスケアの充実と普及の為の啓発活動に取り組んで下さいました。

当院を退職され、現在もホスピス医として、ご活躍されております。

参加者の感想



本講演を聞き、改めてホスピスの意味を認識したと共に、「いのち」が生まれる瞬間についてという、とても大切なお話を聞くことができた。「いのち」とは何か。それは弱っている患者に対して十分なことができない医療者も、自らを弱きものとして自覚し、それでも患者、家族のためだけを思い、つらさを分かち合うことに努めるなかで、同じ弱き者同士に真の心の交流が芽生え、生まれるものであるという。

医療従事者として、何かをしてあげなければと意識し努めるものの、何もできない自分に打ちひしがれる経験はこれまで何度もあった。そんな私にとって、このお話は勇気をもらい、これからの指針となる。

リハビリの分野は、症状や機能障害を回復することを担う一方で、障害を負った方がその状態でも、自分らしく生きていけることを支援することも大切な役割である。それには、その方の人生を知り、生活を見据え、共に過ごすという「いのち」を生む交流が必要なのではないか。そのような関わりを少しずつでも実践していける医療者でありたい。

リハビリテーション科 言語聴覚士 甲斐 始

細井先生の経験談や緩和ケアの在り方、患者さんとの関わりに対する思いをお聞かせ頂き、看護師としてだけでなく、一人の人として患者さんに関わることの大切さを考えることができた。

訪問看護で関わる患者さんの中にも、ターミナル期の方がおられ、その方々は癌だけでなく慢性疾患、老衰と様々な病状である。この患者さんの最期に看護師としてどのようなケアができるのか、どうすれば少しでも安楽に過ごしてもらえるのかを考える日々である。その中で細井先生がお話されたように、患者さんにとって「こころが通う人に見守ってもらえる」「弱さを受け入れてもらえる」この関係になれているのか。

看護師としての技術や知識も大切であるが、ターミナル期の方にとってはそれだけではなく、弱さも辛さも、そして嬉しいことも一緒になって感じ取れる人間同士の関係を築くことが大切であり、その関係が築ければ、本当のケアができるのかなと感じました。

友愛の家ヴォーリス 看護師 中村 茉莉子



物忘れについて

もの忘れ外来 医師 西教 美千子

物忘れには2種類あるのをご存知ですか。

一つは**老化による物忘れ**で、例えば「あの人の顔は思い出せるが名前が出てこない」と言うタイプ。このタイプは特に心配しなくても大丈夫です。

もう一つは**病気としての物忘れ**で、食事を摂ったのにも関わらず「まだ食べていない」と言うタイプで、このタイプは放置しておく、どんどん物忘れが進行します。

病的な物忘れは、簡単に分類すると3種類に分かれます。

一つは、**糖尿病や高血圧などによって引き起こされる動脈硬化や、不整脈で生じた血栓による脳梗塞や脳出血を原因とするもの**、二つ目は**脳内の神経細胞の変性による認知症（代表はアルツハイマー型認知症）**、三つめは**治療可能な認知症と言われる正常圧水頭症や甲状腺機能低下症**などがあり、これらは手術や内服治療で改善が可能です。

現在一番多い認知症は、**アルツハイマー型認知症**です。このアルツハイマー型認知症自体は、以前からありましたが、あまり目だっていませんでした。が、最近注目されてきているのは、**長寿が原因**です。つまり認知症（アルツハイマー型認知症）は、老齢化によって生じる病気です。特殊な病気ではなく、誰でも発症しうる病気なのです。現在のところ、病気の進行は抑えても改善する薬はありません。なので、**できる限り早めに発見し、認知症以前のMCI『軽度認知症』の段階で治療を開始**することが推奨されています。

また予防も大事です。予防と言っても特別なことではありません。すべての病気の予防に当てはまることですが、**生活習慣病の改善、節酒、禁煙等が予防**になります。

人生100年時代、老化やそれに伴う病気はありますが、できるだけ心身ともに健康に過ごし、寿命を全うしましょう。

物忘れが気になっているあなた！
気になるようであれば、遠慮せず**もの忘れ外来**へお越しください。
早めの治療が大事ですよ。



「最期までいのち輝かせて生きるために」

ホスピス 緩和ケア認定看護師 谷川 弘子

～自分で決める人生の終末～

みなさんは自分の終焉の時、その時までをどのように生きて、最期を迎えたいですか？

人は病気やケガで命の危険が差し迫った時、約70%の人が医療やケアなどの望みを自分で決めることが出来ないと言われています。

自分が望む医療やケア、大切にしていること、望んでいることを前もって周囲の人たちや医療者と話し合うことを「**アドバンス・ケア・プランニング**」と言います。これは、平成30年3月に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」として国が策定し、その年の11月にこの名称を「**人生会議**」と名付けました。

ご家族や医療者とこれからの過ごし方や、大切にしてきたことなどを語り合うことは、気恥ずかしい気もします。ですが、私の看護師人生の中で、“本当にこれでよかったのか”“これがこの方の望む事だったのか”と思うことも多くありました。まさしく、「人生会議」がなされていたらと、その重要性を感じずにはいられませんでした。

誰にでも訪れる人生の終わりの時。

人生の最期にどう在りたいか、だれもが大切な事であることは分かっているはず。でも、なんとなく「縁起が悪いから」という理由で、話すことを避けていないでしょうか。縁起でもない話をもっと身近に、当たり前、もしもの話しが出来るようにすること、人任せには出来ない大切な自分のいのちと向き合って生きること、それがすなわち、最期までいのち輝かせて生きることに繋がるのではないのでしょうか。

もしものときのために、「人生会議」をしてみませんか。



ボランティア秋の集い

11月2日（土）、ボランティア秋の集いを開催し、ボランティアさん15名、職員8名が参加しました。「活動中に会った患者様やご家族からいただいた言葉が嬉しかった」、「活動後にボランティア同士で交流を楽しんでいる」と、ボランティアさんが笑顔でお話してくださいました。澤谷事務長からは、活動が始まった経緯をお聞きし、ボランティアさんの尊いご奉仕に感謝の言葉がありました。その後、親睦を深めるために11名の有志で八幡山を登りました。天候に恵まれ近江八幡の素晴らしい景色を見渡すことができました。

これからもヴォーリズ医療・保健・福祉の里のチームの一員であるボランティアの皆様とご一緒できますことを大変嬉しく思います。

ボランティア委員会 委員長 中村 信雄



近年「少子高齢化」という用語が日常あちこちで使われるようになりました。里ボランティアにおいても、ボランティア登録人数減少の大きな要因として、このことが挙げられるようになり、それはその通りであるかと思えます。

『秋の集い』も最盛期に比べると参加者も減りましたが、世話人の方の尽力もあり、コンパクトながら楽しい交流の場を持つことができました。

各委員の紹介では、思いもかけず、私が離任のあいさつまですることになり、個人的にも貴重なひとときとなりました。感謝 ヴォーリズ老健センター 岡地 良一

管理栄養士ようちゃん
おススメ!

“正月明けに食べられる体にやさしいレシピ!! だけどエネルギーは控えめに…”

明けましておめでとうございます。お正月は皆様、いかがお過ごしでしたでしょうか？初詣など活発に動かれた方もいれば、寝正月で過ごされた方もいると思います。この時期、「食べすぎて太ってしまって…。ダイエットしたいけどやっぱり食べたい。」という相談が多くあります。今回はエネルギーを抑えながら、たっぷり食べるためのポイントについて紹介させていただきます。

①エネルギーを意識した食材選びをしましょう!!

同じ肉や魚でも部位や種類によってエネルギーは異なります。脂身の多い肉より赤身肉を選ぶ方が低エネルギーですが、脂身や皮の部分は取り除くか、食べる時に残すようにしても効果的です。

	エネルギーの高い食品	エネルギーの低い食品
肉	牛バラ、牛サーロイン、牛ロース、豚バラ、豚ロース、鶏モモ	牛ヒレ、牛モモ、豚ヒレ、豚モモ、鶏ササミ、鶏ムネ肉
魚介類	トロ・ウナギ・青魚	白身魚・貝類・甲殻類
大豆製品	厚揚げ	豆腐・豆乳
牛乳・乳製品	生クリーム・チーズ	低脂肪乳・スキムミルク
調味料	マヨネーズ・ドレッシング	ポン酢・レモン汁・ノンオイルドレッシング

食材の脂が落ちる
グリルや網焼きも
おススメ♪

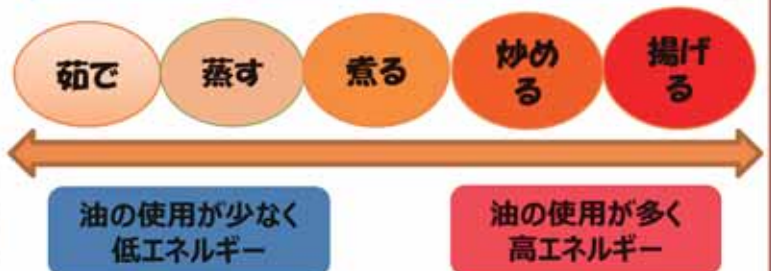
②野菜でボリュームアップ!!

×肉のみを炒める ⇒ ○野菜も含めて
野菜炒めに



挽肉の代わりに野菜やキノコを使うなど、いつもの食材を低カロリー食材で代用するのも○

③エネルギーを抑える調理法を選びましょう!!



医師紹介

総合診療科・循環器科

三ツ浪 健一（みつなみ けんいち）



【大学卒業年】 1973年 京都大学医学部

【専門分野等】 循環器内科、総合診療

【読者に向けてコメント】

循環器内科医として心臓や血管の病気を診断し、治療しているうちに、それらを治しても元気になっていただけない患者さんがおられることに気がつきました。それ以来、「からだ」を癒やすだけでなく、「こころ」や「まわり（家族や社会）」、さらには「たましい」に寄り添える医師を目指すようになりました。

ヴォーリス記念病院では、1918年の結核療養所開設以来、キリスト教の隣人愛と奉仕の精神に基づき、心と魂に寄り添って、それらの健康を重要視する医療が実践されてきました。

淀川キリスト教病院の柏木哲夫先生は、人に寄り添うには以下の10の人間力が必要とっておられます。すなわち、1) 聴く力、2) 共感する力、3) 受け入れる力、4) 思いやる力、5) 理解する力、6) 耐える力、7) 引き受ける力、8) 寛容な力、9) 存在する力、そして10) ユーモアの力、です。これらの中で最も重要なのが聴く力で、最も困難なのが共感する力とのことで、「傾聴と共感」がとりわけ大事であることがわかります。

ヴォーリス記念病院は、これらの人間力を養うのに最適の病院であると感じており、少しでも身につくよう、毎日努力しているところです。どうぞよろしく申し上げます。

令和元年度 ヴォーリス記念病院「がんセミナー」のご案内

第2回 2020年1月11日（土）

「消化器がんの最新知見～早期発見のコツから免疫療法・ゲノム医療まで～」

講師：滋賀医科大学医学部附属病院 消化器内科

病院准教授 稲富 理 氏

※第1回目は終了致しました。



時 間：いずれも午後2時～午後4時

場 所：ケアハウス信愛館（近江八幡市北之庄町492-2）※当院ホームページのマップをご参照ください。

定 員：30名

お申し込み：氏名、住所、電話、参加希望人数を明記のうえ、メールまたはFAXでお申し込みください。

定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。

（申し込み後、メールまたはFAXの返信をもって参加証といたします。ご持参ください。）

【お問い合わせ】 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院（がんセミナー担当：中村）

FAX：0748-32-2152

E:mail:vories-reihaidoh@vories.or.jp

※日程、講師など変更の場合もございます。最新情報をホームページでご確認ください。



☆もの忘れ外来

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っています。リハビリテーション科を始めとする全ての診療科とも常に連携し、患者さんの治療に最適な医療を提供しています。

診療曜日：水曜日 12:30～14:45

予約制になっております。事前にお問い合わせください。

病院からの お知らせ

◆糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで偶数月の木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお尋ねください。

日時 2020年2月20日(木) 12:00~13:30

場所 新館研修室(病院内)

講師 管理栄養士

※主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

◆2019年度 ヴォーリス介護予防教室のご案内

テーマ:「明日は我が身...認知症発症のリスクと予防」(年間5回)

回数	月日	担当	内容	講師予定
5	2/20(木)	ヴォーリス記念病院	「あたまが元気になる体操(仮)」	メディカルフィットネスセンター-ヴォーリス 所長 久保 大志

- 日程、講師など変更の場合もございます。最新情報をホームページでご確認ください。-

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員:30名
- ②場所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館) ※近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
- ③開催時間 14:00 ~ 16:00
- ④参加費 無料
- ⑤申し込み 往復ハガキで ①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡用電話番号 を記入の上
〒523-0806 近江八幡市北之庄町492 ヴォーリス記念病院内
介護予防教室係 まで (単月の申し込みも受付します。)

【お問い合わせ】 ホームヘルプステーション ヴォーリス

担当 中上 (TEL:0748-32-7130 / FAX:0748-36-5458) まで



地域療養支援部「医療相談課」

患者様やご家族様に住み慣れた生活の場で、安心して療養し生活を送って頂けるようサポートします!

- ・健康保険、介護保険等の社会保障制度について
- ・在宅での生活、介護についての不安
- ・施設の入所や利用について
- ・地域の病院・開業医の皆様からの受診・入院依頼

お気軽にご相談ください。 ※部屋は正面玄関入って左側でございます。

TEL (0748) 32-5211 (代) / FAX (0748) 36-5412 (直)

【人間ドック、健診についてのお問い合わせ】

医事課2番窓口にお越し頂くか、お電話(0748-36-5467)下さい。

※お問い合わせ時間:13:00~17:00

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町492

電話:0748-32-5211(代表)

FAX:0748-32-2152(代表)

HP:www.vories.or.jp/

<アクセス>

- ・名神高速道路竜王ICより約30分
- ・JR琵琶湖線近江八幡駅下車
北口駅前より車で約10分
- ・近江バスで長命寺行き、ヴォーリス記念病院前下車
- ・シャトル(無料送迎)バス